



この10年で消えたもの

謎の遺物

つい先日まで、末広町の西波止場横にこんなものが残っていたのをご存じですか。いったい何なのか。約10年前、旅行者として函館に来ていたころから気になっていました。

どうもカーフェリーのゲートのようです。西部地区からフェリーが出ていたという昔話も聞きました。なのに自分でも不思議なことに、フェリーはどこ行きだったのか、いつごろの話か、には無頓着でした。



西波止場の謎の遺物(後ろは緑の島)

仰天の正体

さて、近ごろ何度か大間行きフェリーを利用しました。船内には、「ノスタルジック航路」と称するこの航路の紹介パネルがありました。

函館と大間の間にフェリーが就航したのは、昭和39(1964)年とのこと。パネルには「昭和46年の大間―函館時刻表」もありました。見れば何と、1日15往復、真夜中も休まず、24時間態勢での運航です。

現在は1日2往復。当時は津軽海峡をはさんだ函館と下北の間に、今からは想像できないような人やモノの行き来があったということです。

帰って早速、運航会社のホームページやネット版『函館市史』を調べましたら、当時の写真も載っていました。函館での車両積みおろし風景もありました。バックには金森倉庫の屋根



ボーディングブリッジも残っていたが



きれいに撤去された大間フェリーの痕跡

が見えます。まさに、西波止場横で見かけ気になっていたフェリーのゲートの現役時代の姿です。

ここが黄金時代のフェリー乗り場だったとは驚きでした。開設は昭和43年、ターミナルが七重浜に移転する昭和51年まで、ここが大間への玄関だったこともわかりました。

もつと下北

西波止場付近では護岸改良工事が進行中です。前に見たとき、このゲート跡も柵で囲われていました。

やがて撤去されるかもしれない。虫の知らせというのでしょうか、11月4日の朝7時、ふと気になって行ってみたら、目の前に背の高いクレーンを積んだ船が来ていました。

9時過ぎに再び行くと、ゲート跡も、一緒に残されていたボーディング

ブリッジも、きれいさっぱり消えていました。

現場には工事関係者以外の人影はなかったのです。ニュースにもならなかったと思います。ひっそりとした最期です。思い出すのは平成21(2009)年、函館どつくのゴライアスクリーンが撤去されたときのこと。みんな大騒ぎしていました。

函館・大間はわずか1時間半、運賃も新幹線で青森に行くのとは比較にならないほどの低価格。これまでの自分を柵に上げて言うのも何ですが、この航路がもつと注目されてもいよいよに思います。

大間側では通院、買い物などに、函館はまだまだ欠かせない土地だそうです。函館側の関心は、もつぱら原発ばかりの感があります。でも、大間そして下北は、観光地としても魅力がいっぱい。

海路による青函交流も、趣があった。いつの日はないでしょうか。

★プロフィール★

おおにし つよし
大西 剛さん

1959年生まれ、大阪出身。
2011年秋より函館に移住し、「新函館ライブラリ」を設立。通り一遍の観光客ではなく、コアな函館ファンに訴えるような函館本の出版に取り組む。本年は、スマホに頼らず函館情報を携帯できるよう、既刊の本格的函館案内書「市電でめぐる函館100選」を分冊・豆本化。